

周辺のみどころ

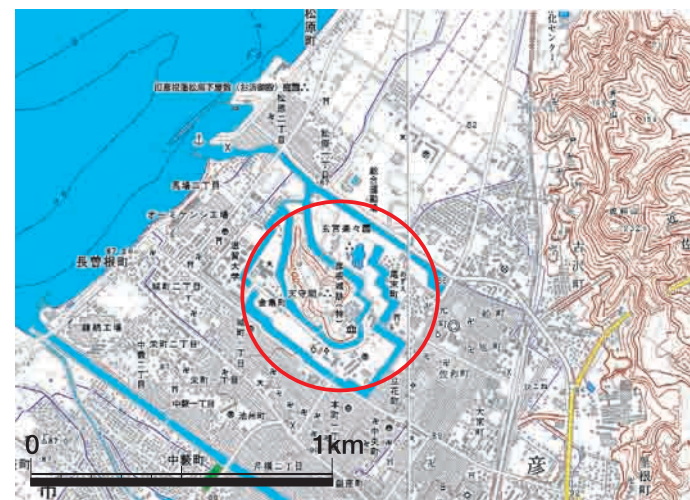
彦根城の北東約2kmにある佐和山城跡は豊臣家五奉行筆頭、石田三成の居城として有名。

彦根城および周辺には、表御殿を復元した彦根城博物館、名勝玄宮楽々園などがあり、近世の大名文化を堪能することができる。

彦根城を取り巻く城下町で昔のままの面影を探すならば、芹橋二丁目付近の足軽組屋敷や芹中町から沼波町にかけての「七曲がり」などを歩いてみるのも良いだろう。



彦根城跡の内堀を巡る屋形船



[アクセス]

- JR 琵琶湖線・近江鉄道彦根駅下車、徒歩約10分。

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]

(関連文献/関連施設)

- 彦根市教育委員会『彦根城ガイドブック』
- 財団法人滋賀県文化財保護協会編『近世の城と城下町—膳所・彦根・江戸・金沢—』サンライズ出版

彦根城跡

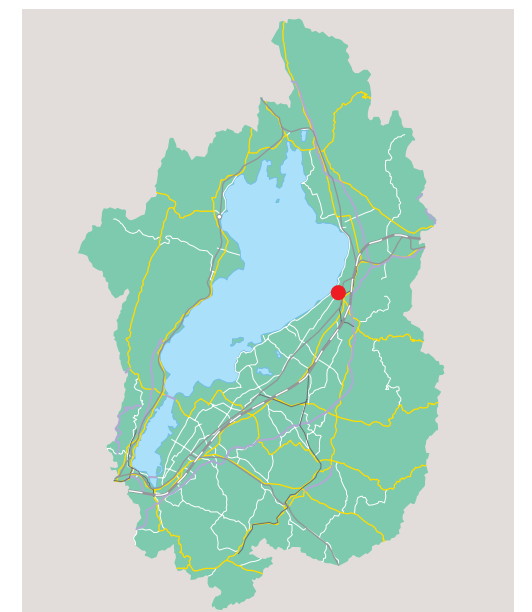
彦根市金亀町



上空から彦根城と琵琶湖方面を望む

天下の名城として名高い彦根城。彦根城は江戸時代の初期に築城された城郭で、日本国内における城作りとしては最終段階のものであり、戦国時代をとおして発達してきた城作りの技巧が詰め込まれた城ともいえる。

彦根城は、教科書や概説書等では「^{ひらやまじろ}平山城」の典型として紹介されることが多いが、その立地をみると、琵琶湖を最大限利用して築かれた「水城」であることがわかる。琵琶湖に近い独立山塊上に作られた彦根城は、西国の押さえとして機能するために築城された、琵琶湖という地理的特性を活かした、高い防御性を有する城だったのである。





天守と御広間跡の礎石

彦根城跡

所在地 彦根市金亀町

琵琶湖を制するものは天下を制す

近江はその中心に琵琶湖を湛え、古来より交通・通商のルート（湖の道）として歴史の舞台となってきた。戦国時代には天下統一を目指す織田信長とその家臣達の居城として、安土城・長浜城・大溝城・坂本城が琵琶湖に面した場所に築城されていく。これは琵琶湖に面した場所に城を築くことによって、経済的・軍事的に湖上の支配権を確立しようとしたものだと考えられている。信長以降、秀吉・家康と天下人は変わっていくが、彼らも琵琶湖を重要視していたことは間違いなく、列島の東西をつなぐ大動脈としての琵琶湖を重要視する。彦根城はそのような軍事戦略の中で、徳川幕府が関ヶ原合戦後の未だ不安定な西国経営の中で井伊家に築城させた、西国の押さえとしての城だったのである。

彦根城の築城、城下町の整備

彦根城の築城は、徳川四天王の一人として

家康の側近であった井伊直政の子、直継（直勝）によって始められた。慶長9年（1604）に築城が始められるが、城下町の整備までが終わるのは元和8年（1622）頃までと、約20年の歳月を要した。

築城にあたっては、幕府から6人の奉行が派遣され、近隣諸国の大名に助役が命じられるなど、天下普請の様相を呈していた。これは豊臣恩顧の大名が多い西国への押さへの拠点として意識され、完成が急がれたためと考えられている。天守そのものも大津城の遺材を用いたと伝えられ、また、普請に必要な材木・石材は周辺の古城・廃寺から集めていることから、今風にいうと彦根城はリサイクルの城でもあったのだ。

いっぽう城下町は、金亀山（彦根山）の東側を抜け松原内湖へと注いでいた芹川（善利川）を約2kmに亘って付け替えて琵琶湖に直流させるとともに、金亀山の東にあった尾末山を切り崩して、周辺の低地を埋め立てるこ



芹川（善利川）の現況（芹橋より）



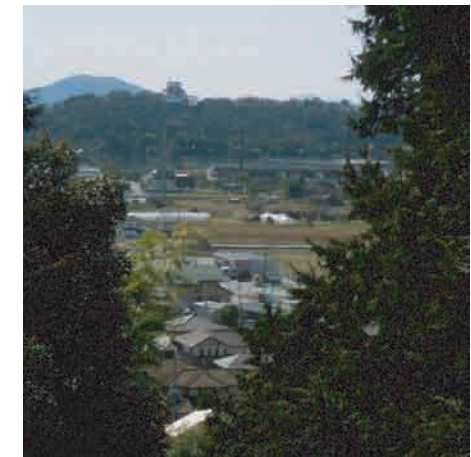
善利組足軽組屋敷

とによって、城下町の地割を行ったと伝えられている。

城下町は三重の堀と善利川によって4エリアに区画され、各エリアには武士・町人の居住域が明確に区分されていた。善利川の北側は城下町の最も外側にあたり、足軽組屋敷が軒を連ねる。彦根城と城下町を守備する役割を担うために配置されたものであるが、道幅は1間半（約2.7m）と狭く、「どんつき」「くいちがい」など城下町特有の備えが今も残る。

「水城」としての彦根城の特色

初代藩主井伊直政は関ヶ原合戦後、佐和山城に入城するが、新たな城作りを行わずに亡くなってしまう。築城場所については、佐和



大洞弁財天から彦根城を望む

山から琵琶湖へと延びる低山塊の磯山も候補に挙がっていたが、最終的には金亀山（彦根山）への築城が決まる。磯山は眼下に松原・入江のふたつの内湖が広がっていることから、城下町を作る際には大規模な埋立工事が必要となることなどから避けられたのではないかと考えられている。

彦根城は琵琶湖にほど近い独立山塊の金亀山に築城されているが、三重の堀は松原湊のみを介して琵琶湖とつながっており、琵琶湖（水）を介した防御ラインを意識した城・城下町作りを目論んでいたことがわかる。琵琶湖を擁する近江という地理的特性を十二分に活かした城、それが彦根城なのである。